

令和6年度第2回宗像市スポーツ推進審議会 議事録（要旨）

日 時	令和6年8月28日（水）17:55～19:40				
会 場	宗像市役所 202会議室				
出席者	委 員	■市丸 ■村山	■釜瀬 □石松（欠席）	■末永 □大賀（欠席）	■西村 □河野（欠席）
	事務局	■大塚 ■松水	■上田 ■福本	■吉丸	■水田

【開会】

大塚課長： 定刻となったので、令和6年度第2回宗像市スポーツ推進審議会を開会する。

この審議会は、宗像市スポーツ推進審議会条例第6条第2号の規定により、委員の半数以上の出席が成立条件となっている。本日は委員総数9人のうち、ご出席の委員数6人で、本日の審議会が成立することを報告する。

議事に入る前に資料の確認をする。

（資料の確認）

これからの進行を市丸会長に願います。

1 開会あいさつ

市丸会長あいさつ

2 議事録（議事要旨）署名委員の指名について

市丸会長： 議事録署名委員の選出について、今回の議事録署名委員を2人願います。名簿順に指名する。前回は、大賀委員と釜瀬委員にお引き受けいただいたので、今回は、末永委員と西村委員にお引き受けいただきたいと思う。

（両委員が承認）

3 協議事項

（1）スポーツ推進計画の策定について

・第3期スポーツ推進計画の目標値について

市丸会長： 続いて、協議事項に移る。「（1）スポーツ推進計画の策定について」の「第3期スポーツ推進計画の目標値について」事務局より説明をお願いします。

福本： 資料1をご覧ください。

前回の審議会で、これまで行ってきた市民アンケートの結果や市の現状等から課題を整理し、今後5年間で達成したい目標として、5年後の理想像のようなものを掲げ、共有させていただいた。今回は、その目標に対して、明確な目標値を設定したため、その内容について審議いただきたい。項目が大きく分けて6つあるため、1項目ずつ審議を進めていく。

【1. 健康づくり】

(1) ◆自分の健康状態に適した運動・スポーツに取り組める

ここでの目標は「運動やスポーツを行っている者の増加」とし、3つの指標を設定した。1つ目は、「市民アンケート」における「成人の週1回30分以上の運動やスポーツを行っている者の割合」で、目標値については、現状が45.0%であるため、ここから毎年1,000人ずつ増加すると仮定し、50.0%と設定した。2つ目の指標は、「5年後の文化スポーツ課アンケート」における「成人の週1回30分以上の運動やスポーツを行っている者の割合」で、目標値については、現状45.7%であるため、ここから毎年1,000人ずつ増加すると仮定し、50.0%と設定した。3つ目の指標は、「法定報告」における「1回30分以上の汗をかく運動を週2日以上、1年以上実施している人の割合」で、目標値については、現在が52.1%であるため、ここから毎年1,000人ずつ増加すると仮定し、57.0%と設定した。

(2) ◆市民が地区ごとに自宅から歩けるウォーキングコースを知っている

ここでの目標は「ウォーキングコースを知っている者の増加」とし、指標は、「5年後の文化スポーツ課アンケート」における「ウォーキングコースを知っている者の割合」とした。現状、推進の取り組みは行っておらず、市内全域を一斉に推進していくことは現実的ではないため、まずは2地区を対象とし、目標値は、推進地区で20.0%と設定した。

(3) 健康意識が高まり、新たに運動を始める人が増えている

ここでの目標は、2つ設定した。1つ目は「運動やスポーツを行っている者の増加」としたが、こちらは再掲となるため、説明は省略させていただく。2つ目は、「運動を通じた健康づくりに関する相談支援件数の増加」とし、指標は、「運動を通じた健康づくりに関する相談支援件数」の実績とした。現状の実績はないが、アウトリーチを年2回実施し、1回につき50件の相談があると仮定し、目標値を年100件と設定した。

以上が健康づくりの項目である。

補足として、今回、全ての目標に対して目標値を設定しているが、これは、明確な目標があることで、その目標達成に向けてより活発に推進の取り組みを実施していくことが期待できることから、設定した次第である。

市丸会長： この項目について、質問等はないか。

村山委員： それぞれの目標値に対する方策や取り組みについては、5年間の中で考えていくと

いう認識でよいか。

福本： そのとおり。目標値に対して、どのような取り組みを行うかは、その時担当する職員に委ねる。

村山委員： 目標値に向けて何を行うのかが一番重要になるため、その取り組みは今後考えていくということであるのなら、これでよい。

市丸会長： アウトリーチとはどういうものか。

上田係長： 行政の相談となると、通常、相談する人が役場やどこかの建物に来て相談することが多いが、私たちが考えているこの相談は、無関心層にアプローチすることが大切と考えているため、行政側が自ら、その無関心層が集まるような場に出向き、身体の状態を測定するなどして、自身の身体の状態について知ってもらいたいと考えている。

末永委員： アウトリーチ1回で50件は、厳しいと感じるがいかかがか。どちらかと言えば、1回につき2件を50回の方が現実的のように感じる。

上田係長： 以前、エイコーウェルと連携して、地域のお祭りの場に出向いたときは、50件程度の相談があった。ただ、この目標値は、2回で100件を目指したいのではなく、年間100件を目指したいということが目標であり、その手法、内訳については、指定しない。1回50件については、あくまでも目標値を設定するための参考数値として捉えていただきたい。

釜瀬委員： ウォーキングコースはどこにどのくらいあるのか。市内に何か所あるのか、または、各地区にあるのか、その辺りを含めて教えていただきたい。

上田係長： 平成の頃に、コミュニティ単位で、健康を担当する部署が中心となり作成したことがある。ただ、現在そのウォーキングコースを行政はうまく活用できていない。

今、宗像市としては、自宅から歩けるウォーキングに取り組んでいただき、健康増進に繋がたいと考えている。そのためには、自宅から歩けるウォーキングコースを知っていただく必要があるため、改めて、この5年間で、その推進に取り組んでいく。

これから、その方法等について検討を行っていくため、全12地区を一斉に取り組むことは難しい。丁寧に取り組んでいくことを考えると2地区が限界と見込んでいる。

末永委員： エイコーウェルと健康課とが共同してウォーキングマップを作成した。健康課が持っていると思うが、印刷費用が高く、もう作っていないのではないかと思うが、現状どうなのか。

また、自宅からのウォーキングコースについては、以前、日赤看護大と共同で作成したことがある。その時は、2kmの目安となる系を用意し、地図上で、自宅から2kmの範囲を系を使って確認し、往復で戻ってこられるルートを自分で探すということを行った。その後、活動量計を持って一定期間ウォーキングを実施してもらい、その記録を取った。

このような取り組みも行われたことがあるということを確認したうえで、新たな方法を考えていくといいのではないかと思い、お伝えした。

上田係長： マップについては、健康課に若干の在庫はあるものの、末永委員のおっしゃるとおり、印刷に費用がかかるため、積極的な配布は行っていない。

また、後半の件については、様々な関係者と集まって、良い取り組みができればと考えている。

大塚課長： ウォーキングマップについて補足させていただく。健康課が作成したウォーキングマップについては、スポーツサポートセンターのホームページにおいて掲載している。しかし、知らない人が多く、このことをより知ってもらうこともひとつの課題である。

市丸会長： その他に質問等はないか。ないようなので、次の項目に移る。

【2. 生きがいつくり】

(1) ★◆誰もが気軽に運動やスポーツに取り組める

ここでの目標は、2つ設定した。1つ目は、「運動やスポーツを行っている者の増加」であり、こちらは再掲のため説明は省略させていただく。2つ目は、「運動やスポーツを行っていない者の減少」とし、指標は、「5年後の文化スポーツ課のアンケート」における「運動やスポーツを行っていない者の割合」とした。目標値は、現在が37.4%であるため、ここから毎年500人ずつ減少すると仮定して、34.8%と設定した。

(2) ★運動やスポーツの体験→練習→仲間づくりができる

ここでの目標は、4つ設定した。1つ目から3つ目は、「体験できる教室の設置」「スキルアップできる教室の設置」「共通の目的を持った者が集って競い合う教室の設置」とし、指標は、それぞれの教室の数の実績とした。目標値については、現在、実績はないが、スポーツ協会において9種目の教室を実施している実績があることを基に、5種目と設定した。4つ目の目標は、「団体加入率の増加」とし、指標は、「5年後の文化スポーツ課のアンケート」における「団体加入率」とした。目標値については、現在が15.0%であるため、ここから毎年200人ずつ増加すると仮定して、16.0%と設定した。

(3) ★◆運動やスポーツを継続する人のために、その目標となる成果発表の場がある

ここでの目標は、「成果発表の場の設置」とし、指標は、「成果発表ができる種目の数」の実績とした。目標値については、現在、実績はないが、スポーツ協会において19種目の大会実績があることを基に19種目と設定した。

(4) ★◆市民のニーズに合ったプログラムが提供されている

ここでの目標は、「アンケートでニーズの多いプログラムの提供」とし、指標は、「プログラムの種目の数」の実績とした。現在、アンケートのニーズとは関連していないが、宗像市スポーツサポートセンターにおいて4種目のプログラムを実施している。この実績を基に目標値については、4種目とした。

(5) 障がいの有無にかかわらずスポーツに親しむことができる

ここでの目標は、「スポーツや文化芸術活動等への参加率の増加」とし、指標は、福祉課が実施している市民アンケートにおける「スポーツや文化芸術活動等の参加率」とした。目標値については、令和3年度が19.5%、令和5年度が22.5%であったことから、26.0%と設定した。

(6) 運動やスポーツの継続年数にかかわらず、運動・スポーツを通じて楽しさや喜びを実感し続けることができる

ここでの目標は、2つ設定した。1つ目は、「スキルや目的に合った教室の設置」とし、指標は、「スキル等に合わせて選ぶことができる教室の数」の実績とした。目標値については、初級と中級を選べる教室を2種目実施すると仮定して、4教室と設定した。2つ目は、「上記教室の指導者の育成や確保」とし、指標は、「上記教室に携わる指導者の人数」とした。目標値については、1教室につき最低1人と考え、4人と設定した。

以上が、生きがいづくりの項目である。

市丸会長： この項目について、質問等はないか。

末永委員： 障がいの項目について、目標値が、スポーツや文化芸術活動となっているが、スポーツと文化の内訳はどのようになっているか。こちらが関係するのは、スポーツの部分のみであるが、この内訳がわからないと、文化のみが増加したことにより全体が増加していても、目標達成となってしまう。

福本： アンケートでは、スポーツや文化芸術活動等に参加しているかという設問になっているため、その内訳については把握できていないというのが現状である。

末永委員： 文化のみが増加していても、全体の数値が目標値を達成していれば良しとするのであれば問題ないが、そうしないのであれば、何かしら考える必要がある。

それと、スポーツの種目については、前回のアンケートに載せた種目に限るなど、どこまでを範囲とするのかを考える必要がある。先ほど少し調べてみると、笹川スポーツ財団には 200 種類載っており、ウィキペディアには 400 種類近く載っていた。なかでも特に気になったものは、e スポーツが含まれていたことである。その辺りをどう扱うかなどは検討する必要があると考える。整理の仕方としては、個人なのか集団なのか、対人なのか非対人のかなどの方法がある。

上田係長： どの種目に取り組むかについては、まだ考えていない。ただ、ニーズに合ったプログラムの実施というところについては、アンケートにおいてニーズが多かった種目を実施していきたいと考えている。

e スポーツに関しては、スポーツ基本法の考え方でいくと、身体活動から競技までがスポーツとして捉えられているため、e スポーツについては、少し違うのではないかと考えている。ただ、手を動かすため、身体活動となるのか、その辺りの区別が難しいと感じている。

末永委員： 脳も使う。脳も身体であるため、身体活動とも言えると思う。電気活動ではなく骨格筋の活動があるかどうかで絞っていくなどの方法もあると思うが、微妙なところである。

麻雀やチェスなどもスポーツに含まれているため、ぜひ一度調べていただきたい。

市丸会長： その他に質問等はないか。ないようなので、次の項目に移る。

【3. 子どものスポーツ】

この項目の5年間で達成する目標については、前回審議会でお示しした内容から、改めて整理をし直し、4つから3つに変更している。削除した目標は、「学校以外の場でも取り組みたいスポーツに取り組むことができる」であり、こちらで示したかった内容については、「◆すべての中学生が取り組みたいスポーツを行うことができる」に包含させることとした。その内容については、後ほど説明する。

(1) ★◆幼児期から様々なスポーツを体験できる

ここでの目標は、「幼児対象の体験教室の増加」とし、指標は、「体験できる種目の数」の実績とした。目標値については、現在の実績はなく、これから事業を企画していくことを考慮して、2種目と設定した。

(2) ◆すべての中学生が取り組みたいスポーツを行うことができる

ここでの目標は、3つ設定した。1つ目は、「中学生対象の様々な教室の設置」であり、指標は、「種目の数」の実績とした。目標値については、現在、10種目を対象に部活動地域移行の取り組みを行っていることから、10種目と設定した。2つ目は、「中学生対象の学校以外の場での教室の設置」とし、指標は、「種目の数」の実績とした。こちらの目標が、削除した目標「学校以外の

場でも取り組みたいスポーツに取り組むことができる」に対応したものである。現在、南の郷クラブにおいて中学生対象とした教室を3種目実施していることから、目標値については、3種目と設定した。3つ目の目標は、「運動が好きな中学2年生の増加」とし、指標は、学校アンケートにおける「運動が好きな中学2年生の割合」とした。目標値については、5年後に中学2年生となる現小学3年生の割合が48.9%であることから、現状維持を最低ラインとし、49.0%と設定した。

(3) ◆子どもがトップスポーツ選手と交流できる

ここでの目標は、「トップスポーツ選手との交流事業の実施」とし、指標は、「交流事業の回数」の実績とした。現在、年2回の実績があることから、目標値については、年2回と設定した。

以上が、子どものスポーツの項目である。

市丸会長： この項目について、質問等はないか。

末永委員： 小学生に関する目標がないが、何か意図があるのか。

上田係長： 特に意図はない。

末永委員： 小学生に関する目標を入れる必要はないか。

大塚課長： 部活動地域移行の取り組みのひとつであるが、グローバルアリーナに委託している事業において、スポーツが好きな子どもを増やすことを目的に、中学生のみならず小学生も対象とした教室を10種目開催しており、今後も引き続き開催したいと考えている。

末永委員： 指標として入っていないため、取り組むのであれば入れた方がよいと考える。

上田係長： 検討させていただく。

市丸会長： プリンセス駅伝におけるトップスポーツ選手との交流とは、どのようなことを行っている、もしくは行う予定なのか。

大塚課長： 大きく分けると2つある。今年度であれば、大会終了後に小学校2校において開催するランニング教室を通じた交流事業と、もうひとつは、ユリックスのランニングコースを舗装したため、そのお披露目とプリンセス駅伝を絡めて、選手などを招いた交流事業を行う予定である。

市丸会長： プリンセス駅伝は、かなりのトップ選手が来るため、興味があり、質問させていただいた。

その他に質問等はないか。ないようなので、次の項目に移る。

【4. スポーツ環境の整備】

(1) ★それぞれの取り組みにおいて適した指導者がいる

ここでの目標は、「上記教室の指導者の育成や確保」とした。こちらは再掲となるため、説明は省略させていただく。

(2) ★◆相談できる環境が整っており、市民がそれを知っている

ここでの目標は、2つ設定した。1つ目は、「運動を通じた健康づくりに関する相談支援件数の増加」としたが、こちらは再掲のため、説明は省略させていただく。2つ目は、上記の支援体制の市民の認知」とし、指標は、5年後の文化スポーツ課アンケートにおける「知っている市民の割合」とした。現在の認知度は、アクアドームが83.6%、スポーツ協会が23.6%、スポーツサポートセンターが9.4%である。目標値については、アクアドームは、現状から毎年200人ずつ増加すると仮定して83.6%、スポーツ協会とスポーツサポートセンターは、最低ラインを30%として、30%と設定した。

(3) 市民がスポーツできる場が確保されている

ここでの目標は、3つ設定した。1つ目は、「種目数の維持」とし、指標は、「種目数」の実績とした。現在の実績はないが、19の単位協会が活動していることから、目標値は19種目と設定した。2つ目は、「面数の維持」とし、指標は、「面数」の実績とした。現状は、資料のとおりであり、目標値については、現状維持として、現状と同様の値を設定した。3つ目は、「稼働率の維持」とし、指標は、「稼働率」の実績とした。目標値については、屋内施設は、市民体育館、勤労者体育センター、玄海B&Gの3体育館の実績を参考に、93%と設定し、屋外施設は、運動広場の実績を参考に50%と設定した。

(4) 地域スポーツの課題が明らかになり、スポーツ推進委員と連携してそれらに取り組んでいる

ここでの目標は、2つ設定した。1つ目は、「スポーツ推進委員の支援体制の維持」とし、指標は、「支援回数」の実績とした。昨年度の実績が年20回であることから、現状維持として、目標値は年20回と設定した。2つ目は、「スポーツ推進委員との連携による地域課題解決事業の推進」とし、指標は、「委員の延べ参加人数」の実績とした。昨年度の実績が年484人であることから、現状維持として、目標値は年484人と設定した。

(5) スポーツ施設に関する計画に基づく施設の集約・複合化や既存施設の有効活用等が着実に実行されている

この項目については、別途スポーツ施設に関する計画を策定する予定であるため、目標、目標

値については設定しないこととする。

(6) 市民が施設にアクセスしやすくなる対策が研究されている

この項目では、対策の研究を行うこととしており、明確な目標値を設定することは難しいため、設定しないこととする。

(7) 世代や地域を超えて交流できる場がある

ここでの目標は、「南の郷クラブの会員数増加」とし、指標は、「南の郷クラブの会員数」の実績とした。現在の会員数は124人であり、ここから毎年、大人が2人、子どもが4人ずつ増加すると仮定して、目標値は154人と設定した。

(8) 市民が市内でスポーツ観戦をしている(トップスポーツ)

ここでの目標は、「市内観戦者数の増加」とし、指標は、5年後の文化スポーツ課アンケートにおける「市内で観戦したことがある者の割合」とした。目標値については、現在が6%であるため、ここから毎年、800人ずつ増加すると仮定して、10%と設定した。

(9) スポーツ協会に「★」を推進する基盤体制が構築できるよう体制の整備に努める

この項目についても、明確な目標値を設定することが難しいため、設定しないこととする。

以上が、スポーツ環境の整備の項目である。

市丸会長： この項目について、質問等はないか。

末永委員： 温水プールは、どこの温水プールを指しているか。

福本： アクアドームである。

末永委員： アクアドームは7コースある。

市丸会長： プールもレーンと表すのか。

末永委員： コースと表す。

福本： 修正する。

釜瀬委員： スポーツ推進委員との連携とあるが、宗像市には何名の推進委員がいるのか。

上田係長： 24名である。

釜瀬委員： 各地区に分かれているのか。

上田係長： 地区コミュニティが12地区あり、各地区2名ずつ配置されている。

末永委員： 市民の観戦率の目標が10%となっているが、市内でスポーツ観戦をするようなイベントは何件くらいあるのか。現状に対して件数が増えれば、観戦者も増えるのではないかと思う。

上田係長： 観戦の機会は出来る限り増やしていきたいと考えている。末永委員のおっしゃるとおり、観戦の機会がないと観戦ができず目標達成もできないため、いかに観戦の機会を作ることができかが重要であると考えている。

村山委員： スポーツ観戦の面で、悔いが残っていることがある。今年、パリオリンピックに城山中学校の卒業生が2名出場した。城山中学校が立派な体育館に建て替わったこともあり、城山中学校でパブリックビューイングを行っていたら、夜中であったことが懸念されるころではあるが、多くの市民が見に来てくれたのではないかと考えている。このようなパブリックビューイングを実施したいときには、市に提案を行えば、実施できるものなのか。他の市町では、学校でパブリックビューイングを行っており、私も提案すべきだったのではないかと感じていると同時に、提案をすれば実施できていたのかという部分が気になっている。

大塚課長： パブリックビューイングの実施については、文化スポーツ課でも検討した。しかし、村山委員もおっしゃったように夜中の試合となることから、見合わせることにした。学校でのパブリックビューイングについても、今回は、試合時間の都合があり難しかったが、条件が合えば実施は可能であるため、まずはご提案いただければと思う。学校だけでなく、場合によってはユリックスなどを活用して行うことも考える。

村山委員： こういうものもスポーツ観戦に含まれると認識している。ワールドカップなど他にも大会は様々あり、今後、このような機会は増えると思っているため、確認させていただいた。

末永委員： リアルタイムでなくても良いのではないか。

大塚課長： 今回、パブリックビューイングという形ではできなかったが、市公式のSNSでリアルタイムに放映時間の呼びかけ等を行った。

YouTube等を検索すれば、その時の動画が出てくるので、その情報をどこかにアップする等の取り組みは考えられるかもしれない。

末永委員： 環境的に見られない人もいると思われる。

村山委員： パブリックビューイングについては、実施することによって市全体で盛り上がる事ができれば、大きなスポーツ観戦のイベントになるのではないかと思い、質問したところである。

市丸会長： オリンピックに関連して、もうすぐパラリンピックが開催されるが、そこに福岡教育大学を卒業した瀬戸勇次郎が柔道で出場する。この選手は、世界ランク1位ということで、金メダルを取るのではないかとされている。福岡教育大学では、この選手を招き、講演をしていただこうと考えている。

市丸会長： その他に質問等はないか。それでは、次の項目に移る。

【5. 情報発信】

(1) ★市民が次のサービスを知っている

①施設で何ができるか②施設の使い方やルール③借りることができる道具や用具

ここでの目標は、「認知度の増加」とし、指標は、5年後の文化スポーツ課アンケートにおけるこれらの「認知度」の実績とした。現在、①②については実績はなく、③は13.7%である。目標値については、①は、今回のアンケートにおいて施設を1度は利用したことがあると回答した割合に5,000人をプラスし、60%とし、②は①と同様の目標値を設定した。③については、現状から毎年200人ずつ増加すると仮定して、14.8%と設定した。

(2) 毎年、市広報紙で運動やスポーツの体験→教室(練習)→仲間づくり→成果発表の場(→観戦(見学))が情報発信されている

ここでの指標は、市広報紙掲載の号数の実績とし、目標値は、年1回と設定した。

(3) 「◆」の情報が発信されている

こちらについても、指標は、市広報紙掲載の号数の実績とし、目標値は、年1回と設定した。

(4) 情報発信(蓄積)サイトが充実している

ここでの目標は、「サイト認知度の増加」とし、指標は、5年後の文化スポーツ課アンケートにおけるサイトの「認知度」とした。目標値については、25%と設定した。

(5) 発信した情報が市民のもとへ確実に届いている

ここでの目標も、「サイト認知度の増加」とした。再掲となるため、説明は省略させていただく。

(6) 宗像市のイベントが市外の人にも興味を持ってもらえている

ここでの目標は、「同一イベントの市外視聴率の増加」とし、指標は、「市外視聴率」の実績と

した。目標値については、プリンセス駅伝の関東地区世帯視聴率の実績をもとに設定しており、昨年度の実績である5.8%から、毎年0.1%ずつ増加すると仮定して、6.3%と設定した。ちなみに、0.1%の増加で約2万世帯の増加となる。

以上が、情報発信の項目である。

市丸会長： この項目について、質問等はないか。ないようなので、次の項目に移る。

【6. 地域スポーツ資源の活用】

(1) ◆毎年、子どもたちに海に親しむ機会が提供されている

ここでの目標は、「維持」とし、指標は、「提供件数」の実績とした。目標値については、現在が年25コマであるため、同様に、年25コマと設定した。

(2) ◆プリンセス駅伝が継続されるよう支援を行っている

ここでの目標は、「持続」とし、指標は、開催地としての「実績」とした。これまで10年間継続して開催地となっており、目標値については、計画期間である「5年継続」と設定した。

(3) ◆ホストタウン交流による子どもの異文化交流ができています

ここでの目標は、「持続」とし、指標は、「交流件数」の実績とした。昨年度の実績は9件であるが、これは例年より少し多い実績となっているため、目標値については、例年の実績を参考に年5件と設定した。

(4) ◆世代ごとのラグビーを通じた交流やラグビーの試合、観戦の提供が行われるように支援を行っている

ここでの目標は、「持続」とし、指標は、「来場者数」の実績とした。現在の実績はないが、ワールドラグビーユースの来場者数を参考に、目標値は、休日において1日4,000人と設定した。

(5) 市内の民間スポーツ施設等のスポーツ資源が有効に活用されている

ここでの目標は、「活用数の増加」とし、指標は、「活用数」の実績とした。現在の実績はなく、目標値については、年6回と設定した。

以上が、地域スポーツ資源の活用の項目である。

市丸会長： この項目について、質問等はないか。

西村委員： ホストタウン交流について、令和5年度の実績が例年より増えた理由は何か。

吉丸係長： ホストタウン交流とは、東京オリンピック・パラリンピックを契機としたホストタウン交流事業であり、宗像市では、以前からグローバルアリーナを通じたブルガリアとの交流を行ってきた。東京オリンピックの際には、柔道の合宿の受け入れ等を行いながら交流を深めたが、

その後、コロナウイルス感染症の流行により、数年間、交流ができなかった。令和5年度に久しぶりに交流事業が復活し、交流を待ち望んでいた方も多くいたことから、グローバルアリーナには少し無理をしていただきながら9件の事業を実施した経緯がある。ただ、例年は5件程度であり、継続して行っていくことを考えると、5件が適当であると判断し、この目標値を設定した。

西村委員： 増加したということであれば、9件は難しいとしても、平均よりも少し増加させた方が良いのではないか。

吉丸係長： 5件は最低ラインと捉えている。可能な限り多くの交流が実施できればと考えている。

末永委員： 市内の民間スポーツ施設等とは、具体的にどのような施設を考えているのか。

上田係長： 一番活用できる施設はグローバルアリーナと考えている。市では陸上競技場を持っていないが、中学生などから、大会前にトラックフィールドで練習したいというニーズがある。その際に、遠くの陸上競技場まで行かずともグローバルアリーナに場所を提供いただけるようであれば、ぜひ活用させていただきたいと考えている。

吉丸係長： 今年度の夏休みの期間に、グローバルアリーナの陸上競技場を活用して、小中学生を対象とした「かけっこ教室」を実施した。これから、グローバルアリーナとしても陸上競技場を活用した事業に力を入れていきたいということであるため、陸上競技場だけでも数件の取り組みが実施できると見込まれる。

末永委員： そうすると、市内の民間スポーツ施設とは、ほとんどグローバルアリーナを指しているということでしょうか。

上田係長： 現状、連携しながら取り組みを行っているのはグローバルアリーナのみである。他にも民間施設はあるが、接触したことがない。そのような施設には、今年度ヒアリングに伺う予定である。可能性があれば、ぜひ連携したいと考えている。

村山委員： 小学校の水泳授業で利用しているスイミング施設は関係ないか。

上田係長： その部分については、まだはっきりとは答えられない。

末永委員： 市内の民間スポーツ施設はどこがあるのか把握されているか。

上田係長： グローバルアリーナ、ボルダリング施設、フットサル場、イトマン、はるおかが市内にある民間スポーツ施設である。

大塚課長： イトマンについては、既に小学生の水泳事業の受け入れをしているため、そこを含めると6件という目標値は適切でない。この部分をどう捉えるのか、改めて整理させていただく。

市丸会長： その他に、質問等はないか。なければ、全体的を通して、質問等はないか。

市丸会長： 目標値の%の小数点以下については、切り捨てなどし、ざっくりとした数値の方がよいのではないか。

上田係長： 切りの良い数値の目標値となるよう検討する。

市丸会長： その他に質問等はないか。ないようなので、次の議題に移る。

・第3期スポーツ推進計画におけるそれぞれの役割について

市丸会長： 「第3期スポーツ推進計画におけるそれぞれの役割について」事務局より説明をお願いします。

福本： 資料2をご覧いただきたい。こちらの資料は、第3期計画の5年間の中で、それぞれの関係機関等に果たしていただく役割を整理したものであり、この図は、計画の本文に載せる予定である。(1. 19. 45) また、この資料を作成するにあたっては、関係機関である宗像市スポーツ協会、グローバルアリーナ、アクアドームに、ヒアリングを行った。その内容を含めて、整理したものとなっている。

それぞれの役割についてだが、まず前提として、スポーツに関する事業を市民へ直接的に提供するのには、関係機関と考えている。宗像市の役割については、その関係機関がより充実した事業を実施できるよう、関係機関に対して必要なバックアップを行っていくというイメージを持っている。

スポーツ協会については、直接市民に向けて果たす役割と公共施設を通して果たす役割の2つに分けて整理している。直接市民に向けて果たす役割としては、①各団体等と連携した活発な事業展開による充実したサービスの提供②スポーツの裾野を拡大するため様々な競技スポーツの推進③単位協会と連携して選手や指導者等の講習会等を開催することの3つである。公共施設を通

して果たす役割については、現在、スポーツ協会に、図の公共施設の上段に示している施設に関して管理等を行っていただいているため、その施設を通して果たす役割となる。具体的には、①スポーツ公共施設の環境の整備②施設予約の適切な管理の2つである。

続いて、公共施設の下段に示している宗像ユリックス・アクアドームの役割については、①市民の健康づくりの拠点となる事業の実施②多様なニーズに応じたイベントの展開③身体状態の客観的評価を行うための市民へのアプローチ④個々に応じた効果的な指導を行うための専門的な指導者の確保・育成⑤幼児期からのスポーツ・健康づくり運動を行う機会の提供⑥運動と栄養管理を掛け合わせた効果的な健康づくりのサポートの6つである。

続いて、民間例についてだが、こちらは主に民間施設であるグローバルアリーナが果たす役割を整理している。具体的には、①指導者人材の提供②全国、国際規模の大会運営ノウハウを活かしたサービスの提供③子どものラグビーの体験機会の提供④スポーツ・文化を通じた青少年の健全育成⑤国際交流機会の提供⑥ラグビーを中心とした国際的なスポーツ大会や文化イベントの実施⑦ユース世代選手の育成⑧市民や地域のスポーツ活動の場づくりの8つである。

また、それぞれの施設について、公共施設の上段で括ったスポーツ協会が関わる施設については「競技スポーツの体験の場」、下段の宗像ユリックス・アクアドームについては「運動の場」、民間施設については「スキルアップの場」としての役割があると考えている。これらの関係性として一例をあげると、現在、アクアドームで親子プールの体験事業を行っており、そこで体験してみて水泳に興味を持った子どもについては、はるおかやイトマンに繋いでいる実績がある。このように、「競技スポーツの体験の場」や「運動の場」でスポーツや運動を体験してもらい、スキルアップを目指したいと思っていただけた方については、民間施設へ繋ぐという公共施設と民間施設の関係性を構築、継続していきたいという考えがあり、図には「繋ぐ」という矢印で表現している。

最後に、市民から公共施設に向けた矢印で示している施設予約システムについては、市民が窓口に行かずともインターネットで施設の空き状況の検索や予約の手続き、予約状況の確認ができるという役割を果たしていく。

以上が、それぞれの関係機関が果たす役割であり、これらを実現していくことで、市民は健康づくりや生きがいづくりに励むことができる。説明は以上となる。

市丸会長： 質問等はないか。

末永委員： スポーツサポートセンターが含まれていないが、よいのか。

上田係長： ここに示しているアクアドームの役割こそが、今、スポーツサポートセンターで取り組んでいる役割であると整理している。ただ、現時点で、今後、スポーツサポートセンターと

いう名称が残るのかどうか分からない状況であるため、この計画には名称は明記せず、その役割のみ示すこととさせていただいた。

末永委員： わかった。

それと別の話になるが、施設予約システムの矢印の行き先が少し違うのではないかと感じる。施設予約システムは、アクアドームには対応していないため、矢印をもう少し伸ばし、市民体育館などの括りの枠にかかるようにするとわかりやすい。

福本： 修正する。

市丸会長： その他に質問等ないか。ないようなので、次に移る。

4 その他

市丸会長： 報告等はないか。

釜瀬委員： オリンピックは、市民スポーツの意識の高揚を果たす大きな意義を持っていたと感じている。私も睡眠時間を削って一生懸命応援した。特にフェンシングでメダルを獲得した福島選手は、赤間小、城山中出身の選手である。明日、市長表敬を行う予定だったということだが、庁舎や駅などに大きな垂れ幕を掲げるなど、もっと市民に対して、宗像市出身の選手が活躍していることを発信するべきだと思う。

村山委員： 城山中学校の入り口に、皆さんに見えるよう横断幕を掲げている。

大塚課長： 出場をお祝いしたものであるが、庁舎にも懸垂幕を掲げている。

釜瀬委員： 失礼した。このような機会を捉えて、市民の意識の高揚、啓発をしていくとよいのではないかと考えている。私立の高校などは、沢山横断幕を掲げており、よく目に入る。そのため、宗像市でもぜひ、市民の目にふれる情報発信を積極的に行っていただけるとありがたい。

大塚課長： 中止となってしまったが、福島選手については、明日、市長表敬と城山中学校への訪問を予定していた。日程を再調整して、実施できるよう検討する予定である。

村山委員： 今回、オリンピックで日本が盛り上がったが、オリンピックが終わって注目されているブレイキンやスケートボードなどについて、市は何か取り組みを行う予定があったりするの

か。そういう競技に取り組めば、競技人口が増えたり、子どもが興味を持ったりして、スポーツがもっと盛んになっていくのではないかと感じた。

市丸会長： 他に何かあるか。

野口委員： チラシを配らせていただいた。11月17日に南の郷クラブでウォーキングイベントを開催する。参加したい方やポスターを張っていただける場所があればお知らせいただきたい。

市丸会長： 福岡教育大学の体育科にポスターを掲示できる。

野口委員： 後日、お持ちする。

市丸会長： 他に何かあるか。なければ、事務局より次回の日程調整をお願いする。

(委員の日程を確認)

結果： 11月6日(水) 18:00～ 20 | 会議室

10 閉会

市丸会長： 以上をもって、第2回宗像市スポーツ推進審議会を閉会する。

令和6年11月6日

署名 末永 昭人
署名 西村 和美